

平成23年度

第3回土木と学校教育フォーラム 実践・研究報告

よりよいバス交通の在り方を考え、

提案するまちづくり学習

静岡大学教育学部附属浜松小学校

大宮 英揮

目標

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的にとり組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

～小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編より～

「容易には解決に至らない日常生活や社会、自然に生起する複合的な問題を扱う、総合的な学習の時間において、その本質を探って見極めようとする。」

(学習対象例)

- ・身近な自然環境とそこに起きている環境問題
- ・科学技術の進歩と自分たちの暮らしの変化
- ・町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織 など

小学校第3学年 総合

教師の願い

地域社会の一員である子どもが、地域社会をよりよくするために自分たちにもできることがあるということを実感するような学びをしてほしい。



「子ども市長」

大人には気付くことのできない地域のよさや課題を見出し、それらをさらによくする方法を考え、実行する。



- ・事実から課題を見出す力
- ・課題をつかみ、課題解決の方法を見通す力
- ・自分なりに試行錯誤しながら追究する力
- ・自分のアイデアをにもとづいて行動する力
- ・行動したことをもとに、課題解決の仕方を修正・改善する力
- ・課題解決のためのアイデアを提案する力

「子ども市長」

「われら、子ども市長！」

子どもの目から見た身近な地域のよいところや課題を見つけて、よりよくするために自分ができることを模索し、実行する。



「浜松のおいしさを味わおう、広げよう！」

浜松の地産地消にかかわる人と出会い、浜松のおいしさを味わい、広げる方法を模索し、実行する。



〈学習前〉 子どもへのアンケート

〈子ども実態〉

バスや電車を使って登校している子どもが、6割程度。

徒歩通学の子どもの多くは、普段、あまりバスや電車を利用せず、自動車を利用している。

バスや電車に乗ることは、好きな子どもが多い。

バスのよさとして、環境にいいことに目を向けている子どもは少ない。ただ、数名は、バスのよさとして「エコ」を挙げている。



子ども実態は様々であるが、多くの子どもがバスや電車に興味をもっているために、教材として適しているだろう。

バス・電車に関するアンケート

名前 (大野 瑛美)

- ① あなたは、どの交通きかんで登下校しますか。当てはまるものすべてに○をつけてください。
・歩きのみ ・バス ・遠鉄電車 (赤電) ・東海道線 (JR)
- ② あなたは、登下校いがいで、バスに乗ることが多いですか。○をつけてください。
・よく乗る。 ・ときどき乗る。 ・あまり乗らない。 ・乗ない。
- ③ ②で、バスに「よく乗る」「ときどき乗る」と答えた人について問います。それはどのくらいですか。だいたいよいので、1週間に何回、1か月に何回、1年に何回というように教えてください。
()
- ④ ②で「よく乗る」「ときどき乗る」「あまり乗らない」と答えた人について問います。バスに乗るのはどこに行くときですか。当てはまるものに○をつけてください。
・買い物に行く。 ・友達の家遊びに行く。 ・親せき家に行く。 ・図書館に行く。
・病院に行く。 ・じゅくに行く。 ・家族で遊びに行く。
・それいがい ()
- ⑤ ②で、バスに「あまり乗らない」「乗らない」と答えた人について問います。バスに乗らない理由は何ですか。いくつでもよいので教えてください。

全部車とかで行ってしまうから。

- ⑥ あなたは、バスや電車に乗ることが好きですか、好きではないですか。その理由も書いてください。

好きです。
理由 広いからお友達とでも乗れるからです。

- ⑦ バスを利用する人は多くなった方がいいと思いますか。少なくなった方がいいと思いますか。その理由も教えてください。

多くなった方がいいと思います。
理由 車だと1人とか2人くらいだけど、バスは、10人以上乗れるから、エコだと思うからです。

総合のテーマとしての「身近な公共交通」

- ①バスや電車などの公共交通に興味をもっている子どもが多い。
- ②浜松市は、公共交通機関が発達しているが、その反面として車を利用することを前提としたまちづくりがなされている。
- ③環境や福祉など視点のもと、様々な人々のニーズを考えることができる。
- ④よりよい公共交通について考え、実行することを通して、自分も地域社会で暮らす市民の一人であることを実感することができる。



総合の学習で扱うことに適している。

これまでの「子ども市長」の学習に位置づけることができる。

「身近な公共交通」をテーマとする上での課題

- ①単元の終末では、子どもが具体的にどのようなことを実行できるか。
- ②専門的な知識や、普段はできないような体験をどのように保障するか。
- ③学校での活動のみで、子どもの思いや願いに沿った学習を展開できるか。



- ①大学教授や浜松市の職員に、子どもたちが模索してきたことを提案することを単元の終末に位置づける。
- ②遠州鉄道バス事業者に依頼する。
- ③家庭でも、自分の学びを推し進めることができるように促す。

単元目標

公共交通を利用者にとってよりよくする方法を考え提案するというねらいをもち、地域の公共交通の様子を観察したり、公共交通に携わる人々にインタビューしたりする活動を通して、自分の提案をよりよいものへと修正・改善することができる。

単元の流れ(15時間扱い)

- ①本単元の課題をつかみ、公共交通をより良くするための方法を考える。
- ②学習の計画を立て、調査活動を行う。
- ③校外学習の計画を立て、公共交通の様子を観察したり、バス会社の方利用者にインタビューしたりして、自分の提案の妥当性を確かめる。
- ④提案したいことについて、自分なりの方法でまとめる。
- ⑤自分の提案を、専門家に発表する。
- ⑥自分の提案を報告書にまとめる。

〈第1・2時〉マンダラート法を用いて自分のアイデアを模索する。

④ バスや電車をよりよくするアイデアを考えよう。

ユニバーサルデザインの手すりを乗る所につけると乗るときにお年寄り
が乗りやすいと思います。

バスが止まると音楽がながれるけど、走ってる
ときにもながれてほしい。
(走るととまるから。)

バスの下ろの所に行く
ときにだんがあるからあぶないから
さかにしてほしい。

せきの所にもつおきばをつくれいまにもつがそこにおける。

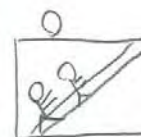
(バス)をもっとよりよくするためのアイデア

バスに乗るときに急なかいだんがあぶないからもうちょっとひくくしてもらいたい!

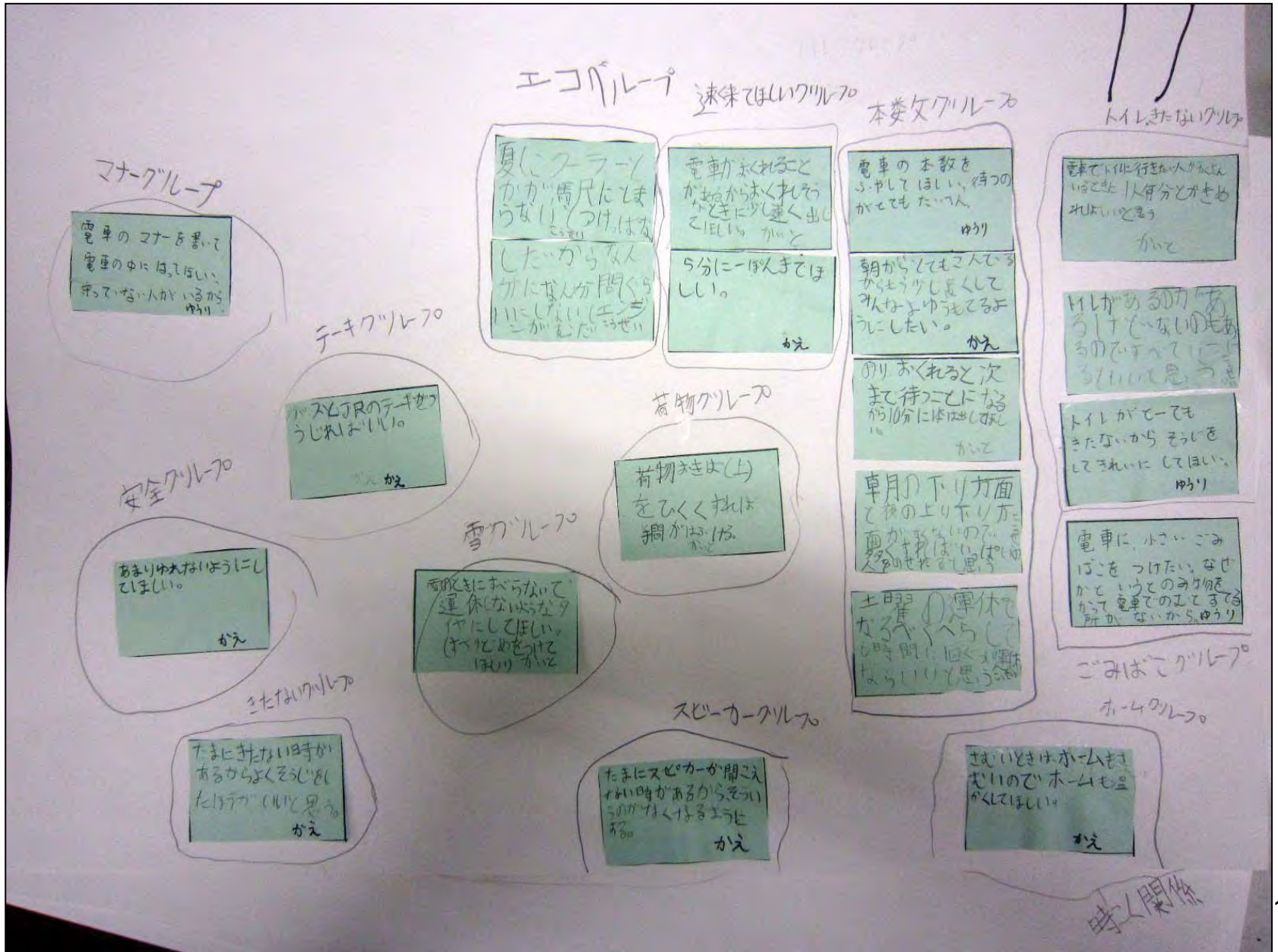
ドアが開くときに外がわにあくからあぶないの
内がわに開くようにすれば子どもたちは
けがをしなくてすむ。

一番前に高いせきがあるから子どもが乗るとあぶないから、ふつうのせきにもどいた方がいいと思います。

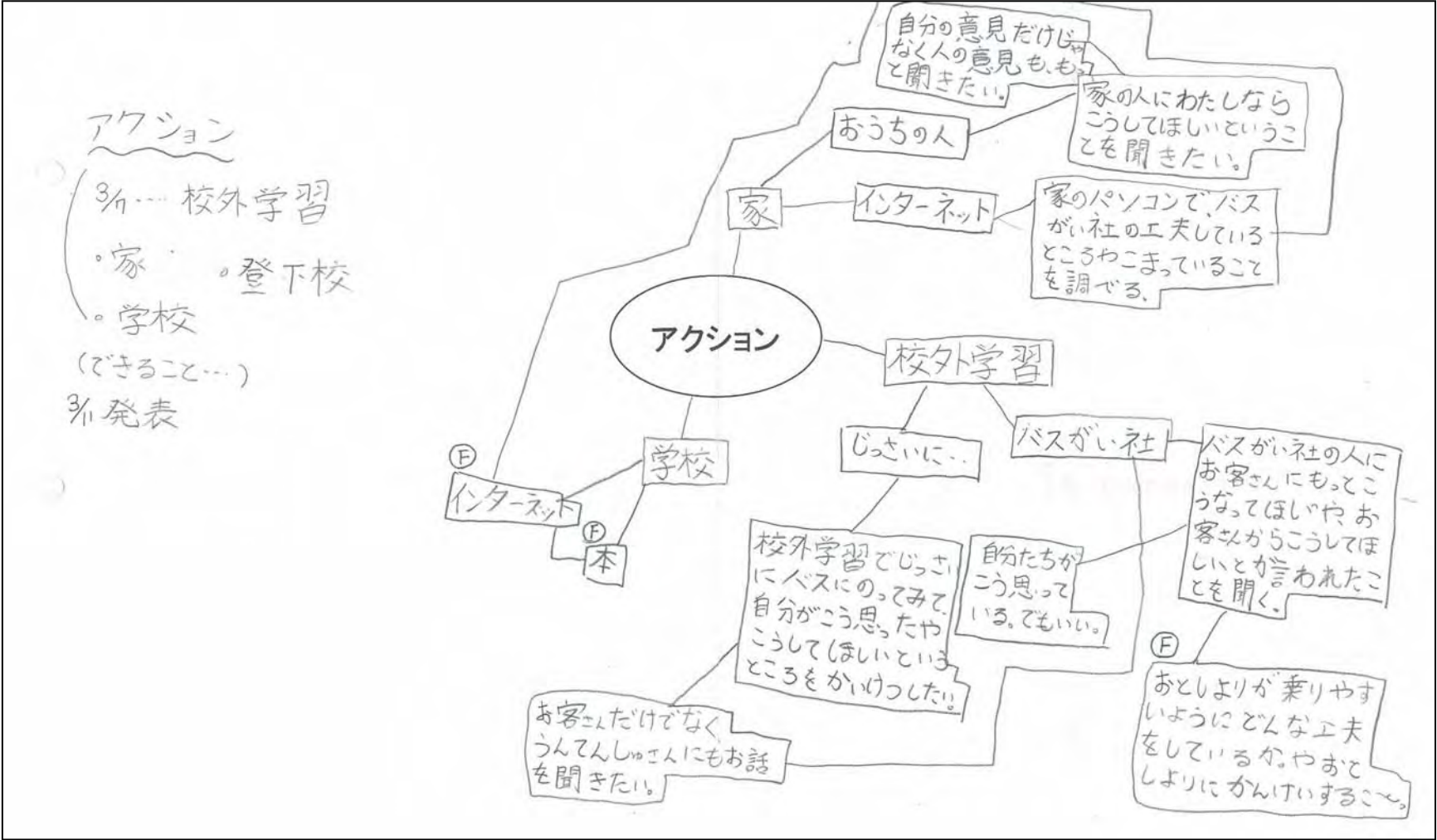
下ろの1つだけ長いせきがあるけれど、あれは何人も入ってくると出れなくなるから、ふつうの2つつのせきでいいと思う。



〈第3時〉仲間と話し合い、自分と仲間の考えをKJ法を用いて整理する。



<第4時>ウェブング的手法を用いて、今後の学習活動(アクション)を考える。



〈第5・6・7時〉ウェビング的法を用いて考えたことを整理して、今後の計画を立てる。

めあて 自分のていあんをよりよいものにしよう!

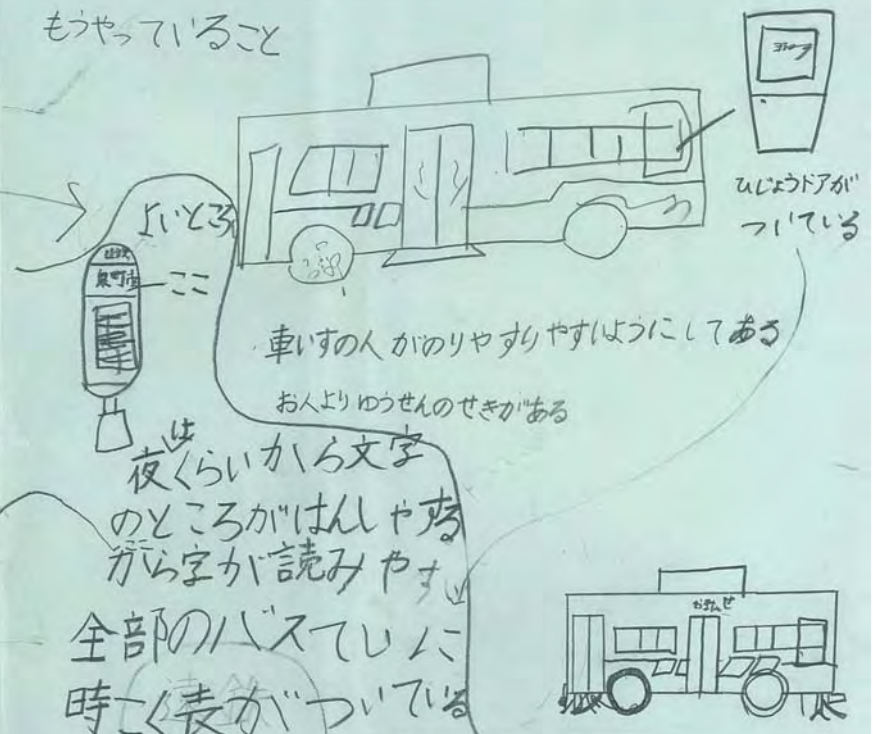
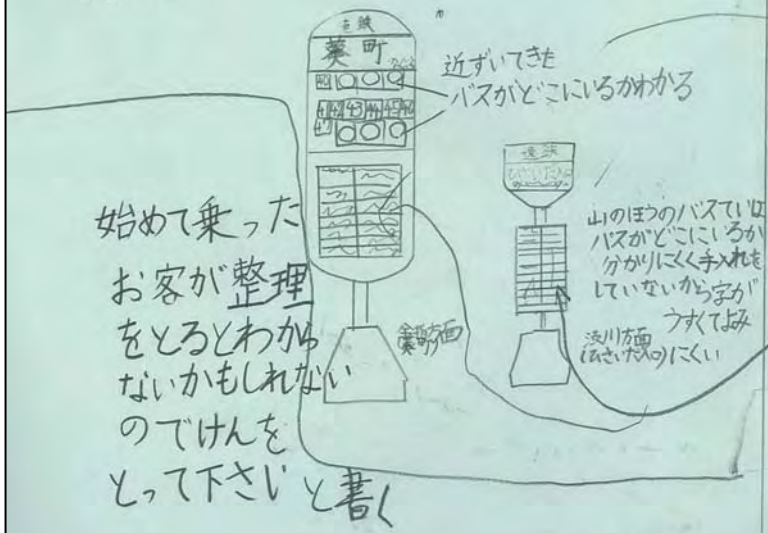
- ①これまでのアクションを振り返る。 ②友達と話し合う。
- ③今後の計画を立てる。 ④つくる。 ⑤友達にインタビューする。
- ⑥一人でじっくり考える。 ⑦調べる。
- ⑧そのほか()

①~⑧の中からえらんで、今日の学習でやることをくわしく書こう。
(⑥)
バスのもっとこうしたらいいことを考えてよいこと/たけど、もうやっ
ていることをかける

もっとこうしたらいいこと

全てのバスでいに今このバスがここにいるようなの
をつける

もうやっていること



4時	05	20	26	...
19時	10	17	25	...
11時	10	19	36	19

〈第10時〉校外学習で、自分なりのめあてをもって見学したりインタビューしたりする。



バスの中で利用者の方にインタビュー



バスにはどのような工夫があるかを知る。

〈第10時〉校外学習で、自分なりのめあてをもって見学したりインタビューしたりする。



バス会社の方にインタビュー



コミュニティバスに乗り、
路線バスとの違いを知る。

〈第10時後〉校外学習の感想。自分の課題を明らかできたことが分かる。

「役に立った校外学習」

名前(木村 優里)



私が調べてわかったのは、お客さんが「いやだ」と感じていることや、直してほしいと思っていることです。私が、お客さんにインタビューをしたのです。けっかは、ケータイゲームがうるさいということや、バスをいをもっとたくさん作り、家の近くにおいてほしいということ、おしゃべりがうるさいということなどでした。でも、そんなにバスの悪い所は、めだたなく、あまりないと私は、インタビューをしていて感じました。また、バスの中には、ポスターがはってありませんでした。予想とちがい、びっくりしました。

とても役に立つ校外学習でした。

「くるるに乗ったよ！」

名前(たかはし りょう)



てび谷の兄字でバスターミカルに行き、ひさしぶりにくるるの南ループに乗りました。7番の場が乗って中に入ると子どものお会や習字がかざってあります。バスでは車体と同じ赤色で後からお年よりがとんとん乗ってきました。音楽が流れていてお年よになるくらいきもち良かったです。ぶつうのバスではせったい通れないような道も通って、お年よりの乗客がバスだな、と思いました。お年よりの乗る時などゆかか大きくて使いやすそうだったので子どものお会を見て、お年よりの乗る時などゆかか大きくて使いやすい所がいっぱいあったからまた乗りたいです。

<第12・13時>「子ども市長アイデア発表会」で発表したいことをまとめる。

アイデア ていあんシート

- ①絵や文章でていあんをわかりやすく書こう。
- ②ていあんをしたい理由が分かるように書こう。

超 低 床 バス

※超 低 床 バスとは、乗るところが低い。(たんさが
ないバス)のことです。

- わたしは、せむぶのバスを超低床バスにしたらい
いと思います。
理由はクラスメイトや、家族に話を聞いたところ
たんさのあるバスはお年より体のふじゆうな人
だけではなく、ふつうの人にもあまりよくないという
意見が多かったことからです。ある友だちは、
たんでいる時にたんさがあるバスだと「だん
おりなければいけなく、ドアが開くときけんだ
から」と言っていました。車いすの人やお年よりの人が
足を高くあげなくてすみ、みんなな、とくする超低
床バスをふやしてほしいです。

3番 = 人
 たんさ
 1分 + 1分 + 1分 = 3分
 雨の日
 てすり

われら、子ども市長！ プレゼンシート

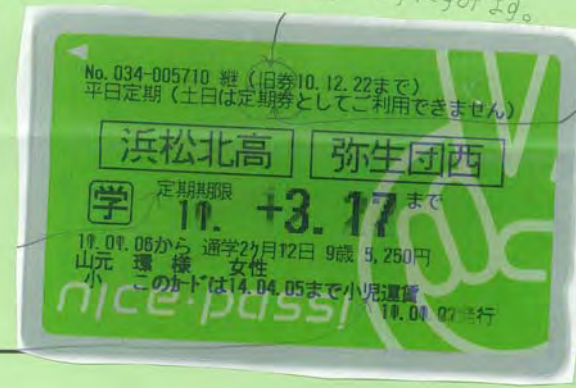
名前(山元 たまき)

めあて 自分のていあんのよさがつたわるようなプレゼンを考えよう。

- ①まず、自分がていあんしたいことをわかりやすく一文で伝える。
- ②そのていあんがひつようだと考えた理由を分かりやすくせつめいする。
- ③そのていあんがじつげんすると、どのようなよいことがあるかをせつめいする。
- ④せつめいの中に、プレゼンを聞きたくなるような工夫や、そのていあんがひつようだと感じてもらえるような工夫を入れる。
- ⑤長くて5分以内で発表できるようにする。

ナイスパスの文字の意味について

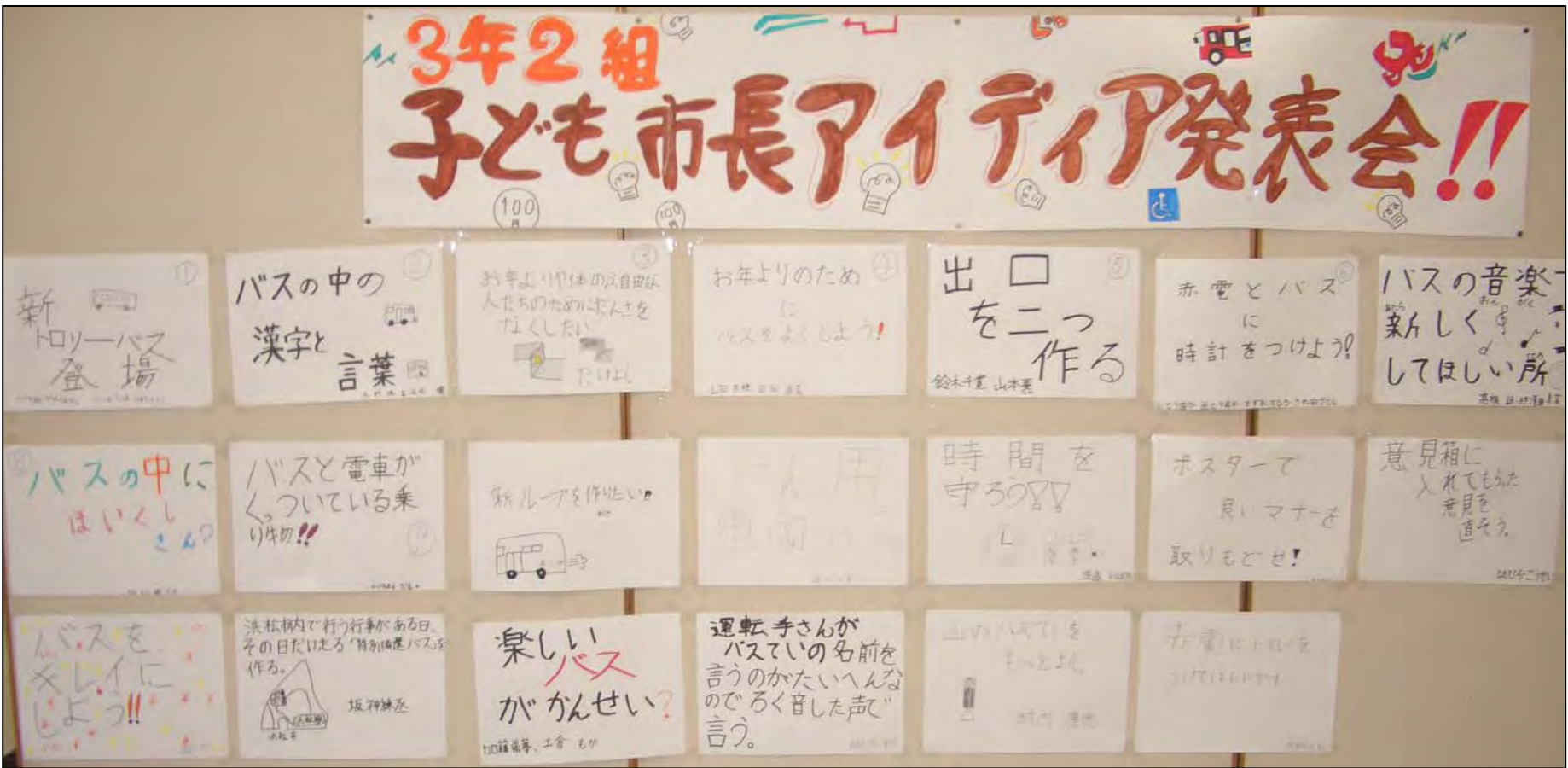
ナイスパスの言葉の意味が、ぜんぜん分からないのに
気づきましたか？たとえば、「静けん」など意味がよく分り
ません。そして、漢字もむづかしくて読めません。
なので、言読みかなをつければよく分かります。おなじような
意味の言葉にかえれば、小どやさしいナイスパス
になります。それに、小さい子のお母さんが、小どもに
「これ、どついう意味？」と聞かれずにすみませう。



「静けん」は「静か」の漢字で、静かという意味です。

この「静けん」は、静かという意味です。

〈第14時〉「子ども市長アイデア発表会」の提案内容



〈第14時〉「子ども市長アイデア発表会」の授業の様子



子ども目線、アイデア次々



児童が浜松市内の公共交通の改善策を発表した—浜松市中区布橋の静岡大付属浜松小で

静岡大付属
浜松小

バス改善策を発表

児童が浜松市内の公共交通の改善策を提案する「子ども市長アイデア発表会」が十一日、浜松市中区布橋の静岡大付属浜松小学校であった。大学教授や市の職員にユニークな意見を発表した。(木村春毅)

時計設置、掲示物は低い位置に

「交通博士」として講師を務めた静岡大教育学部の塩川亮教授は「子どもでないと分からないことを聞いて参考になった」、市職員は「バス会社に提案してみます」と講評した。

大野瑛美ちゃん(ふじ)と山元環ちゃん(ふじ)はバス車内の掲示物について発表した。「注意書きが子どもでは見えない高さにあつたり難しい言葉で書いてある」と指摘し、「読まないといけないのは子どもも同じだから、低い位置に簡単な言葉で書くべきだ」と述べた。

三年生四十人が参加。自分が浜松市長になったと仮定して、住みよい街をつくるための方法を一年間話し合ってきた。この日は、バスについて話し合った。代表の児童が、アイデアを発表。乗り降りを早くするためにドアを二つ作る▽車内に時計を付ける▽お年寄りのために段差をなくす—などを提案した。

〈第14時〉「子ども市長アイデア発表会」の感想

まみやとバスの音楽を勉強して発表できるということがとてもうれしかった。暗記してきた言葉をみんなの前できんちょうしながら言ったので発表をしたときにはほっとした気持ちときょうこれだけの音楽もよくなるかの気持ちでいっぱいだった。
①キムで考えた「電光けいじ板」に曲名が出るようにするが
○市役所のすず木さんに詳しくほめてもらったのでぜひバスの中であつたらいいなと思ひました。ほかの人の発表もよかったです。

わたしは、子ども市長アイデア発表会で「漢字と言葉について」をていあんしました。
なぜ、そのことをていあんしたかというところ、入口・出口の横に『黄色のステップの所には、立たないように原真います』と書いて
○あるけれど、子どもには、読みにくいからです。読みかなでも、ゴチャゴチャして、見えるからです。
ていあんを使ってほしいです。

一年間の総合の学習を振り返って

三年生のじゅ業、一年間をとおして浜松公市の子ども市長としてやってきて、わたしが分かったことは、市長のどかしやどんな仕事をしているかなどはもちろん一番分かったのは浜松のいいところですが、でも全部が全部いいという分けではないですが、その少しよくないところをじゅ業でやらなくてももっとよくしたいなと思いました。もっとよくしたらほかの市よりずう〜、といいところになると思いました。これから生活していく上で、「こもところしたらいいんじゃない。」というところをいはい見つけて自分たちでできることはやっていきたいなと思いました。

実践を通しての知見

- ① 大学教授や浜松市の職員に、子どもたちが模索してきたことを提案することを単元の終末に位置づける。
- ② 遠州鉄道バス事業者に依頼する。
- ③ 家庭でも、自分の学びを推し進めることができるように促す。



- ① 大学教授や浜松市の職員に提案するという学習のねらいを意識させることで、子どもは意欲的に学習に取り組むことができた。また、提案したことを専門家に評価してもらうことで、子どもは充実感・満足感を得ることができた。
- ② 子どものアイデアを確かめるというおさえをバス事業者に伝えたことで、バス事業部の方にインタビューしたり、実際にバスに乗って確かめたりすることで、子どもの学びを支えるような人材活用となった。
- ③ 専門家に提案する、バス事業者にインタビューするなどの活動を学習に位置づけたために、子どもは見通しをもって学ぶことができた。その結果、子どもは、学校だけでなく家庭においても追究活動を継続することができた。